吟道月報
NO.32
50.3.5
碩心会

を極限まで探ぬようと芸術が生れ　芸の道が開かれたのである

吟道ばなし（三）

会長　三井　雲仙

吾々が日夜吟の精進にはげむ対象となっている先哲偉人の作である詩はそれを読むだけで何となく深い感動を覚える「詩は心の声である」、或は「心が内に動いて面白く外に発して詩となる」とか、いろいろ言はれているが、総合的に言えば、詩とは人間の持った詩的感情を一定の約束に従ってこれを韻律的な言葉で美的に表現せられた芸術であると言はれている

人類民族がいろいろな地域にいろいろな環境に育ちながら数千年にわたって人智を高め、文化を磨きつつ今日の文化社会が出来上った、そこに真と善と美

芸術の表現には次の三つの部門がある

一、言語によるもの即ち文学によって美を表現しようとするもの

二、音の韻律によるもの即ち楽器や声などの音波の伝播を聴覚にうったえて美を表現しようとするもの

三、姿、形によるもの即ち舞踊、演劇をはじめ絵画、彫刻の如く形態によって直接視覚にうったえて美を表現しようとするもの

私は今ここに芸術をうんぬんする意志は毛頭ない、本職の芸術家、芸の達人が終生を打ちこんでも達し得ないものを素人の吾々が（しろうと）とんでもない話であることはよく知っている、ただ吾々の励んでいる吟道が、これとどんなかかわりあいを持って居るかを考えて見たいのである

漢詩和歌は勿論、言語で表現する才一の部門に入る
又、普通の文学には韻律はないが漢詩、和歌はそれ
自体韻律を持っている。これを朗誦、吟詠することに
よって才二部門にも属することを知る吾々は今日
この部門の修業に余念がないのである。
又、漢詩だけは中国文学そのものが、物の形をと
っている象形文字を使用しているのでよく見ると絵
画的な美麗にそそられる
特に筆墨使用の漢詩を見るとその感を深うする従
って世界の詩の中で漢詩だけは才三の部門をも包含
していることがわかる。
文学的価値高い詩歌とその特有の韻律を以って朗
詠する吟道の真の意味と　これを自分の余生の楽し
みとして励むその有難さが少しわかる様な気がする。
又、この朗詠に合せて扇子一本の姿でその真意を
表現しようとする詩舞も更にその才三の部門の拡充
であり昔から言はれる七十の手習ながら自分なりの
漢詩がまがりなりにも書ける書道をもと言うたわごと
にも似た欲望が七十才と言う年と共に　そそられるの
を禁じ得ない。

県本部関係

去る十月六日の県本部臨時総会で　新役員の選考の
果が発表されました、次の通り（敬称略）

本部長	一名	常盤笙湘
副本部長	二名	新田笙悠、松本笙嶌
相談役	五名	松井笙洋、諸留笙城　長谷川笙華 河合笙松、伊藤笙智
監事	三名	加藤笙雄　長谷川笙声、角田笙川
総務理事	七名	略
各地区長	四名	増田洋笙（横須賀）寺島笙笙（横浜） 佐藤昭笙（川崎）林　笙菱（湘南）
各部長	六名	略
事務局長	一名	早野笙穣

碩心会関係

◎ 四月二十日（日）平塚市農業会館で行はれる第三回県本部青少年吟道大会に碩心会より左記の七名の方々が出吟されます、御声援をお願いします。

吟題	出吟者	支部名
九月十日	山口みえ子	吟剣
太田道灌	菊地和子	長柄
神州	磯村朋子	桜山
金州城	枝橋蓮雄	吟剣
壁に題す	一柳琴泉	銀詠
九月十三夜陳中作	安田秀泉	吟剣
富士山	渡辺華山	大船A

◎ 三月十六日（日）行はれる五十年度着衣昇伝審査を受けられる方々は、左記の員数であります。

初段（15名）二段（21名）初伝（15名）
三段（43名）四段（16名）中伝（18名）
五段（19名）大段（5名）奥伝（4名）
準師範（1名）師範（5名）計百六十二名

会員異動

退会々員

大船C	早瀬操
吟剣	大屋鉄泉
〃	嶋村修泉

新会員

下山口支部	福永桂子
大船支部A	後藤幸子

栗山町下山口一、九七九
電（75）一、三二四番
鎌倉市王瀧一ー七ー三
電鎌倉（45）二、〇四六番

役員変更

吟剣支部長　渡辺桂泉
〃　理事　小山田紅泉
諏訪支部長　三留忠治　の各氏がなられました